



## ■ 地域と連携した特色ある取組を実践する学校の事例紹介

### 地域とともにある学校づくり

#### 県立浜松湖北高校

生徒が運営する模擬会社  
「湖北MAG I C(マジック)」

浜松市北区引佐町金指 1428

問合せ ☎ 053-542-0016



浜松湖北高校の新校舎(旧引佐高校跡地)



三ヶ日花火大会に参加した生徒たち

#### 模擬会社「湖北MAG I C(マジック)」

浜松湖北高校(武田知己校長)は、浜松市北区引佐町にある県立学校です。平成 27 年 4 月に引佐高校、気賀高校、三ヶ日高校が再編整備されて誕生しました。普通科、産業マネジメント I 科(農業)、II 科(工業)、III 科(商業)の 4 学科があり、1 学年計 8 学級、全校生徒数約 1000 の大規模校です。産業マネジメント科は、さらに 5 類型に分かれ、実学を推進しています。

浜松湖北高校には、普通科と産業マネジメント科の生徒がそれぞれの専門分野を活用し、連携して「ものづくり」と地域貢献をする、「模擬会社 湖北MAG I C(マジック)」という活動があります。

「MAG I C」は、Multiplied-education(連携) by Agricultural(農業)、General(普通科)、Industrial(工業) and Commercial(商業)の略です。

具体的には、食用ほおずきの商品化や学校オフィシャルグッズ開発、地域貢献イベントの実施など、生徒たちは活発に活動しています。



学校マスコットキャラクター「こほくま」は、地域の子どもたちに大人気のゆるキャラです。地域の様々なイベントに参加し、生徒と一緒に学校と地域を盛り上げています。

#### 奥浜名湖サミット in KOHOKU

平成 30 年 1 月 30 日、「湖北MAG I C」は、「第 2 回奥浜名湖サミット」を同校会議室で開催しました。

参加者は「湖北MAG I C」の生徒たちと地元企業、市役所、自治会、観光協会など 7 団体の代表者です。

サミットでは、生徒たちが天竜浜名湖鉄道金指駅で一日駅長を務めた事例、食用ほおずきを栽培し、地元製菓店から助言を受けながら菓子開発した事例、はままつフルーツパークではほおずき入りアイスを試験販売した事例などを報告しました。

協働相手である、はままつフルーツパーク時之栖の芦沢園長は「『湖北の日』を設けて、生徒たちに運営を任せる企画を考えたい」と期待を寄せていました。

浜松湖北高校は開校して 3 年目の新しい学校ですが、地元企業や地域活動に貢献し、地域の人々から愛されている素晴らしい学校です。(小野田)



サミット終了後、参加者全員で記念写真



## 地域の教育力を高める実践事例

### 地域の子どもたちに ほんものに出あう感動を！ 森町ほんものに出あう会

森町ほんものに出あう会  
責任者 吉筋 恵治  
(県人づくり推進員)



開催前に県庁を表敬訪問した森町ほんものに出あう会の皆さん



代表して活動を報告する吉筋推進員

#### ほんものに出あう

県の人づくり推進員の中には、地域の方々の先頭に立って人づくり活動をしている方が多くいます。

森町の吉筋恵治さんもその一人です。

吉筋さんは、人づくり活動の一つとして、地域の子どもたちに「ほんもの」の音楽・絵画・演劇公演等に出あえる機会を継続して提供し、「ほんもの」と間近に対面することにより感動を与え、子どもたちの創造力や豊かな感性を育むきっかけをつくることを目的に、「森町ほんものに出あう会」を発足させました。

平成 28 年度は、「音楽」をテーマに、県立遠江総合高等学校の生徒、保護者を対象に、アジアミュージックフェスティバル日本代表の歌手（MILLIE Aさん）による歌とトーク会を実施しました。

そして、今年度は、「絵画」をテーマに、11月18日(土)から26日(日)までで、静岡市出身で夭折の天才「海野光弘木版画展」を島田市博物館の協力により、開催しました。

版画の雰囲気にピッタリのレトロな森町内の旧茶工場をギャラリーとして、森町とその周辺市町の子どもたちを中心に、広く一般の方々に見学してもらう文化交流イベントになりました。



会場の旧茶工場は、初代の森小学校の建具等が一部に使用されていたり、壁には昭和30年代のカレンダーが貼られていたり、版画の世界観とマッチしていました。半年間かけて、工場内をきれいにし、ギャラリーとして使用できるようにしたそうです。

#### 地域の教育力を地域で高める

取材したのは、期間中の11月20日(月)の午後でしたが、午前中には100人を超える園児が来場し大盛況だったそうです。

午後の来場者は、比較的大人の方が、多く目につき、開催3日目ですでにリピーターとなった方がじっくりと鑑賞していたのが印象的でした。期間中の来場者は、延べ約1,000人に上ったそうです。

ほんものに出あう会では、「今後も学校教育ではなかなかできない教育の一助を担っていきたい」と話していました。来年度も、地域の子どもたちを引きつけるイベントを開催してくれるでしょう。是非、このような機会を多くの地域の方々に知っていただきたいと思いました。(伊熊)



大学生までは無料で入場することができました。3万枚のチラシを用意し、近隣の学校や公共施設に配布されました。この懐かしい雰囲気、大人の方の来場も誘ったのかもしれない。



吉筋さんが、一枚一枚丁寧に版画が作成された背景を説明してくれました。来場者は、ほんものの版画に圧倒されるとともに、説明により気が付かなかった細かいところにも目がいき、より深く鑑賞することができたようでした。



## 地域の教育力を高める実践事例



少人数のグループで丁寧な指導



算数の『円』について学習しました

### 地域ぐるみの放課後学習支援 しまだはつくら寺子屋 (島田市)

島田市教育委員会教育部社会教育課

問合せ ☎ 0547-36-7963

静岡県教育委員会社会教育課

問合せ ☎ 054-221-3162

### 地域の教育力を活用

県教育委員会社会教育課は、子どもたちが主体的に学習に取り組む習慣を身に付けることができるよう、6月から袋井市、島田市、三島市をモデル地域として、地域の教育力を活用した放課後等における学習支援事業「しずおか寺子屋」を実施しています。

今回は、その中の島田市立初倉公民館で開催されている「しまだはつくら寺子屋」取材してきました。

この取組は、学校の空き教室や公共施設を利用し、地域住民や大学生等の地域人材を活用した「学習支援員」というスタッフが参画していることが特徴です。

加えて、寺子屋の運営には、学習支援員を取りまとめるコーディネーターを一人配置しています。

その具体的な役割は、学校との連絡や支援内容の調整、学習環境の整備、支援員の配置、支援員への指導・助言等であり、特に学校との連携が重要であるため、実情がよくわかっている教員OBが担っているとのことでした。

各寺子屋は、地域の実情に合わせて学習内容が組み立てられており、「しまだはつくら寺子屋」では、様々な教科を指導するのではなく、支援員の経験上、児童がつまずくことが多いと感じる、3年生の算数を主体に週1回指導していることでした。



当日の寺子屋開始前には、コーディネーターを中心に学習支援員が集まり、学習の指導方法や個別対応が必要な児童生徒への支援方法などを話し合っていました。

### 楽しく学習

初倉公民館は、島田市立初倉小学校に隣接している立地の良さから利用しやすく、取材当日も20人ほどの児童が参加していました。児童4人から5人に対して、1人の支援員がついているため、気軽に質問しやすい雰囲気、児童は、みんな笑顔で自ら進んで学習していました。

地域での学習支援のニーズは高く、「初倉小学校以外の児童も、今後、受け入れていくことを予定している」とのことでした。



年も近く身近な存在の大学生ボランティアも学習支援員として活躍してくれています。支援員は、楽しんで学習できるような雰囲気をつくり出していました。

### 今後に向けて

県教育委員会社会教育課は、今後、3年間、モデル地域での成果と課題を検証し、今後、すべての市町に「しずおか寺子屋」を拡大する予定です。

子どもたちが主体的に学習する習慣を身に付けることができるように、地域の教育力を活用し、地域で教育力を高めるこの取り組みが、多くの人にサポートされ、広がっていくことが期待されます。(伊熊)



## ■ 県・市町の活動紹介

### 人づくり推進員研修会

文化・観光部  
総合教育局  
総合教育課



問合せ ☎ 054-221-3304

e-mail [sougouEDU@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:sougouEDU@pref.shizuoka.lg.jp)



約 80 人の推進員、市町担当者が参加しました



人と人とのつながりの大切さを熱弁する諸富教授

### つながりの大切さ

県内各市町で、家庭や地域の人づくりや子育てを支援する「人づくり推進員」と各市町の担当者が参加する研修会が、10月24日(火)に県庁で行われました。講師には、明治大学文学部の諸富祥彦教授をお招きし、「子どもの心を育てるために」と題して講演されました。

諸富教授は、家庭の中には安心感、安定感、守られている感が必要であり、そこにスキンシップを取り入れ“愛されている実感”を子どもに感じさせることが大切であると強調しました。

参加者は、諸富教授から提示された様々な実演体験を通じて、人と人とのつながりや心と心のつながりについて深く実感していた様子でした。

### 人づくりを推進するために

講演後の参加者による意見交換からは、家庭や地域での人づくりの推進に向け、「プロ意識をもって、人と地域の結びつきを強めるために、今後一層努力していきたい」「地域に心からふれあいを楽しめる機会づくりを提供していきたい」といった声が聞かれました。



講演会の後には、参加者による情報交換会が行われました。ここでの参加者の情報共有をヒントに、自らの地域で、新たに団体をつくり、人づくり活動を展開する推進員もいます。

### 人づくり地域懇談会のご案内

県では、原則無料で人づくり推進員を県内各地に派遣し、「人づくり地域懇談会」を行っています。平成12年から現在まで、幼稚園、小・中学校、公民館を中心に、4,500回以上開催してきました。「人づくり地域懇談会」では、家庭や地域における人づくりのヒントが詰まった「人づくりハンドブック」を使い、人づくりや子育てに関するアドバイスや、県の進める「人づくり」について説明します。家庭・学校・地域の人づくりや子育ての手助けができるように、参加者と一緒に考え、人づくりを推進しています。「人づくり地域懇談会」や「人づくりハンドブック」につきましては県総合教育課にお問い合わせください。



人づくり地域懇談会の様子



人づくりハンドブック

■編集・発行 静岡県 文化・観光部 総合教育局 総合教育課(総合教育班)

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3304 FAX 054-221-2905

E-mail [sougouEDU@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:sougouEDU@pref.shizuoka.lg.jp)

URL <http://www.pref.shizuoka.jp/bunka/bk-170a/>

静岡県の人づくり推進

検索

静岡県は「人づくり日本一」をめざしています

